

六 月 号

一特集一

総会資料添付



花鳥諷詠

6月号 (423号)

日本伝統俳句協会

花鳥諷詠®

令和5年6月■第423号 ── 目次

花鳥諷詠選集	
長谷川槙子 4	
この人の作品 ······· 久保 理江 ···· 7	
一頁の鑑賞 音羽 紅子 8	
宮内 千早 9	
実作のための俳句研究③	
歳時記の来た道一	
過去・現在・未来(3) 虚子『新歳時記』の遺産	
卯浪	
虚子研究 『六百五十句』研究(40) ··························16	
地区行事開催日程表19	
総会資料 ····································	
心云貝竹 1~20	
編集後記	

「日本伝統俳句協会」と「花鳥諷詠」は公益社団法人日本伝統俳句協会の登録商標です。

鳥 諷 選

詠

岩 岡 中 正 選

特 選 $\overline{\mathcal{H}}$ 句

野 游 P 太 古 は 海 لح Š 丘 玉 丰

音 立 7 てひ か ŋ 飛 び 込 む春 0 堰

0

ŋ

子

本 村 佐

恵子

繭

玉.

0)

中

に

居

る

۳

と

春

眠

L

伊

万里

萩原

豊彦

途

ŋ

終

睡に

締

まり

田の

面

かな

誌 短 冊 金 沢 寒 篠 島 安

子

長 崗 佐 藤 文 子

光 る

沢 見 昭 子

牡

仄

薄

氷

0

棚

田

枚

納

棺

13

俳

二旬目 にも「春」。 「ひかり」だと感じたところが新鮮で、写生が深い。 立てて」「飛び込む」のが水ではなくて水が輝き 二句目――とくに目新しい景色ではないが、堰に 「飛び込む」と言ったところがこたところが新鮮で、写生が深い なはいの感益錯野 い一放一方の音 性々覚遊

入 選 六 + 旬

春 豆 汀 撒 立 子 き ち 師 0) 7 を 声 夫 祀 だ 婦 る 6 0) だ 雛 会 h を 話 と 飾 楽 高 ŋ L < け 8 な る ŋ ŋ 高 阿 大 槻 南 分 松本 野 谷 Ш 村 香 代子 宗和 大

田 0) 書 神 読 を 送 了 ŋ 戦 奥 乱 能 登 0 11 # ょ 0) ょ 春 朧 泉大津 金 沢 多 中 亩 野 羅 紀子 幸枝

貝 あ たたかき言 寄 風 や 張 葉と言ふ ŋ 7 は は 弛 さかり Š 舫 Í なく S 綱 大 洲 阪 本 小 髙 玉 \mathbf{H} ヒ 菲路 口 子

暗 丹 き 0) 古 芽 書 b 水 肆 音 0 b 棚 変 0 余 は 5 寒 か ね な ど 千 堺 葉 高橋 徳澤 靖夫 彰子

軽 < 打 0 早 春 0 船 着 場 あ わ 5 木幡 嘉子

0) 声 吊 橋 に 揺 n 7 を n 福 Ш 広川 良子

N を 締 め 7 渚 0 寒 稽 古 金 沢 北川 まつ子

黒 遠 波

帯 足

じ る 句 K 追 慕 \equiv 椏 0 花 姬 路 英賀美千代

0) Þ う な 旬 碑 な ŋ 梅 Á 1 大 Ш 今泉

母 そ

許 5 春 里 京 $\stackrel{-}{\longrightarrow}$ 囀 Ш S 軽 5 梅 水 春 と لح لح 匂 草 人 泥 0) 笑 症 H 燭 0 猛 0) 5 13 Š 生 13 灸 を 0 雪 方 ふ ŋ 手 ね 輝 Š ま 六 ふ 命 仏 振 隣 L ^ す 舞 き ŋ 里 Z 借 لح 人 7 子 は は さ < 台 な 曲 n 分 ょ 部 む び う 長 時 は 13 が 0 L n 屋 13 か 靴 降 5 雛 \wedge 雨 計 寿 ^ 野 K ち あ 鶯 揺 0) ŋ 0 を と 火 0) 家 日 冬 ら 餅 吊 n 明 詫 ぬ 0 音 行 族 脚 ぬ ね n と 春 な る び 团 < ど < 高 な 伸 な さ 飾 0 が 7 蘇 < n 径 n 郡 る 雪 5 13 客 \$ ぶ L 苩 名古屋 東 大 広 吹 長岡京 小 東 札 鳥 高 堺 屋 京 京 諸 分 島 田 幌 栖 山 荒井 緒方 斉藤 不破 尾首 杉山 押野 田 清 高 小 藤堂くにを 原 井 村 \mathbf{H} 水 美知子 惠津子 Ш 恵子 始子 澄子 節子 和弘 桂子 美江 輝子 尚子 和子 坪 音 挑 髪 乗 初 総 梅 力 春 b 春 前 洗 風 た 戦 蝶 東 を 1 0 ŋ 会 泥 庭 を 風 ふ 行 ナ 7 を P 0 継 0) を 終 す P く ビ 7 芽 途 誘 ぎ あ 踏 春 べ お ^ 卜 吹 が 中 0) \mathcal{O} 0) と Z 7 礼 ラ L 告 き 点 先 出 下 밂 天 巡 子 流 参 ツ 鳥 車 出 13 \sim は L Š 業 ŋ ク Ш た 先 す 始 L 0) 野 7 13 0 駅 5 0 る ま 7 炎 に L 来 子 荷 P 0) لح 芝 る Ш み ま 遊 b は た 浅 蕗 座 花 た を 命 H 75 Š 0 菠 る 焼 鯏 来 Z 0) 0 け ま か か n 薐 で 旅 朝 駅 < ŋ な 飯 な 薹 る 7 草 浜 浜 松 久留米 大牟田 伊 和 敦 糸 砺 神 福 久留米 歌山 賀 戸 松 \mathbf{H} 山 賀 岡 島 波 秋吉 吉田 岩 前 為 富 前 池 市 宮 Ш ノ Ш 永 原 出 永 脇 上 田 П 香月 瀬 眞 雅 寿之 公子 翔子 ずみ 實子 法子 睦子 知子 裕子 智子 鈴子 か

汽

笛

と

は

遠

<

聴

<

\$

0

夕

霞

豊

中

室田

妙子

啓

暬

0

吾

b

蠢

<

仲

間

か

な

高

松

織

田

雅子

さ

ざ

波

0)

描

<

早

春

0

水

0)

詩

大牟田

介弘

浩司

食

欲

0)

あ

n

7

安

心

大

試

験

高

知

細美

文子

長谷 Ш 槙 子 選

引 妻 水 初 耕 島 鶴 辺 0 渡 雛 人 ま 留 船 0) 0 飲 で 守 春 み 来 鍬 前 厨 満 込 7 に 静 浅 む 月 か 寝 筋 空 春 を に 0) 息 Þ 0) 折 碧 日 歩 0) Ŧī. ŋ 脚 を 末 十 返 伸 か 汳 な Š す す 娘 年 高 袋 徳 金 福 松 井 島 沢 山 渡辺真 岸本佐 早 宇 和 東 間 Ш 紀子 理子 紀子 幸枝 厚

音 0 ばくら 斉 0 13 唄 Ø 7 Š IH が 知 ٣ 0 0) とく 顏 加 をして来 は 芽 る 吹 落 < た る 椿 Ш 倉 七 八 吉 代 尾 吉田 谷 山 \Box 下さと子 やす子 由 美子

さ

宇

部

上

田

久美枝

蟄 腐 屋 P 散 0 歩 止 ジ ま る 日 ギ 団 ン 地 グ P 小 紫 旅 木 行 蓮 み 鹿児島 やま 松尾 海谷 あ ぞめ 育男

0

啓

豆

足

0

調

子

ょ

き W

根

分

久留米

矢野

愛子

畑

仕

事

終

^

7

土

筆

を

S

لح

握

ŋ

宮

佐

房子

旬

短

評

丰

ヤ

ラ

X

ル

透

明 腰

な

風

渡 出

ŋ 7

> < H

蝌 0

蚪 菊

0)

池

駒

井

ゆ

きこ

霞

ょ

ŋ

浮

き

讃

岐

富

士

上とな

る

倉 千

敷 葉

中

田

鈴江

特 選 五 句

欠 け た る b 紅 絹 13 包 み 7 原 飯

塚

咲

子

手 遠 水 足 0) 声 吊 橋 13 揺 れ てを Щ 広 ŋ Ш 良

子

舎 13 摘 草 0) 指 洗 ひけ 良 Ŧi. ŋ 反 \mathbb{H}

代

氷 \mathcal{O} 棚 田 枚 づっ光 る 加

薄

を分ける坂 道花 にミモザ 鶴 見 昭 子

高

松 濱 政 美

落ちてしまったも

絹布 揺 7 旬 ゆく。 句目 É れ を捌く作者の美しい手つきまで彷彿とさせる。 自 ている〉 紅絹に大切に包んだというのである。 古き雛をいとおし 読者の聴覚と視覚とに、 賑やかで微笑ましい景を〈遠足の声が吊橋に 遠足の子らが歓声をあげながら吊橋を渡 雛人形を仕舞う時、 と詠った省略の妙。 む優しい気持と響き合う。 欠け 同時 声 に訴える。 が揺れると くれない色 0

入 選 十 旬

黒 蔀 波 支 梅 春 野 靴 十 靴 春 雛 流 瀬 汀 惜 浅 氷 紐 遊 人 子 帯 0) 戸 跡 H. 軽 0 を む 舟 ゐ L や 0) 0 0 に 師 げ < を 香 か ス る 茶 去 珊 風 太 友 添 を 締 打 を 夢 た 夕 添 筅 瑚 ŋ 斜 古 達 7 祀 < ッ め 纏 殿 0 7 0 ^ 0 め は で 締 L る 力 7 早 木 音 潮 K 海 春 Š 海 8 き 杖 雛 1 切 b 0) 騒 渚 \sim 0 春 湯 W 卜 を と L 跡 手 オ 太 か 0 < 0) 風 0 島 0) 春 飾 言 凍 を ろ 7 L ホ 梅 ピ 寒 を 船 0) 野 臥 ふ 鳥 ゆ ŋ B 1 見 P 稽 呼 着 竜 女 丘 か け は 帰 る か ツ か 古 場 13 せ Š 橅 坂 13 ク な な る む 曲 ŋ 高 西 あ 羽 東 小 神 北 福 神 高 岡 大 わら きは 沢 宮 生 戸 見 岡 分 知 京 諸 戸 崎 山 北川 木幡 岩﨑 蓮見. 玉手 宮﨑 齋 佐 河 Щ Щ 石 村香 之口 藤 藤 坂 野 崎 角 由 ゆ 0 Z うつ子 らきな 代子 嘉子 美子 澄子 り子 節子 淳子 正子 紅 肆 WΦ _ 倫 子 生 き す 弾 耕 吾 卒 汽 汀 大 汀 潮 春 梅 露 春 か 子 寒 匂 子 子 空 tr ゃ 業 笛 天 時 燭 風 λ 育 忌 師 水 0) Š 湯 雨 を と 鍬 0 0 K ぼ K ち や 向 輝 な に 仏 束 は は 素 涯 P 両 梅 似 鑑 7 き ら 音 と 遠 ね 八 大 顔 ょ 手 凜 な た 風 ば 0 分 7 < な 十 受 き さ 13 と る が 濡 ŋ 路 洗 聴 き か 匂 け 雛 5 L れ み < 仰 涯 0) Š < 水 ち 7 揺 に ラ W Š 吾 ζ" 空 水 b 冬 輪 華 き 見 < ン n 雛 を 空 鳥 菜 0) 春 ぬ 春 B え な F 人 元 広 帰 0) 舞 か 夕 ぎ け 力 < 時 子 0 セ が 供 風 L 霞 ぬ る ŋ 町 b 車 な Š ル 雨 L 名古屋 尼 高 草 埼 Щ 豊 浜 高 高 高 東 奈 生 高 松 津 玉 \Box 中 田 松 松 松 京 良 駒 山 信里 藤井 荒井 ほ 岡 藤 和 静 堀 原 藤 室 小 南 りもとちか 并 田 中 岡 池 Ш 田 ミサ あさえ 由 、 く 子 光子 妙子 美子 金子 桂子 貞 幸湖 裕子 建 純子 尚 Í 美 子

金

ま

b

崎

ま 島 鳥 草 托 初 ア 水 汀 春 衣 木 春 立 春 辺 子 雷 登 蝶 ル 0) 萌 た 渡 褪 0) 鉢 0 P ŋ ま 影 を バ 師 0 船 海 み せ 0 途 0) で 誘 0 行 A づ 牧 0 社 春 切 面 来 0 忌 お 僧 0 ひ 身 つ 満 れ 輪 殿 とヨ 夫 た 7 \mathbf{H} 出 牛 0 b 0) L と は 13 浅 艷 ŋ 月 L 夢 覚 ハ 舎 綻 衣 \equiv 来 た 春 永 を 響 ン Þ 0) ż び 0) た シ 13 人 0 久 る あ 7 折 か < 戸 ユ ゃ 13 0 歩 ŋ Ш 野 と 紋 ŋ 享 1 能 を Ш を 梅 春 追 春 \mathbf{H} 13 -ラウ 保 白 笶 返 開 0) 障 炬 返 ^ か 游 ず 燵 す す 月 雛 Š 子 < ス Š 蝶 な 舞 袋 下 久留米 東 糸 高 福 朝 福 七 長 石 千 熊 本 崻 井 山 倉 関 山 尾 崎 Ш 葉 京 島 貞包 早間 井手 杉原 橋本 吉澤 宗像 大日 大和 並木 湖 伊 駒 宮脇 形 東 藤 ·紀美子 ひとみ 方明 ちくの か 秋野 紀子 幸枝 芳子 な尾 和子 博道 清子 隼 睦 莮 美 子 \equiv 早 色 吉 卒 啓 参 畑 Щ 水 春 豆 0 13 ば 備 腐 蟄 草 仕 北 白 0 月 春 道 笑 業 < 0 事 斗 0) 0 屋 ゃ 生 0) B 0 ふ ゃ ら 世 庭 終 昭 野 0 ふ 别 丈 研 商 8 風 0 に 止 剣 Ш 和 0 \sim 0 IH 0 言 修 ょ \mathcal{O} 空 0 ま 羽 0 7 生 知 道 程 葉 生 音 支 土 n 雛 0 る 流 き 0) 好 秘 場 広 筆 方 顔 团 0 n 0) 度 高 は す き を 伏 さ あ 地 13 増 0 を る 立 水 き L 草 0 L Þ Þ ゆ な 5 T P ち 草 鳶 を 紫 き と た Ħ 揚 る 内 来 礼 生 0) 引 通 雲 が 木 午 如 握 は 裏 た ず る < L ち 雀 蓮 後 < ŋ 雛 す ふ 笛 宇 鳥 鳥 倉 鹿 横 高 西 摂 福 八 芦 箕 児島 東京 部 取 取 敷 浜 松 津 宮 岡 代 屋 面 松尾 守谷 今井 爲近 佐 塚 Ŧī. 宮 江 もりおかともこ 小 Ш Щ 岸 百 原 西 下さと子 村 Ш 由 あ 正子 名津 真子 文代 知子 典子 美子 由美 Þ 房子 正子 8 剣

地

球

儀

0)

ど

か

13

戦

霾

ζ,

b

n

島

原

八木

花栗

13

0

13

な

<

饒

舌

な

母

雛

飾

る

柏

原

鈴木

輝子



集後記

0)

いたしま

話から季題を学んでいく企

画

向を変えて、

茶道 0

Ó

からむ衣食住の季題につい

俳句も茶 です。

志でご家族だけで行われたという。 逝去されたとご家族から訃報が 際に改訂しければならなくなった。 二月の末にはお電話でお話をし、 享年七十五歳。 公の黒川 意していた編集後記を締め切り 葬儀は故人のご |月二十六日 温い 遺 副

という時だけに惜しまれてならない。 わたって精力的に活動され、これから 研究に、そして国際俳句にと多方面に 然としている。 つもと変わらぬお声であったので、 までの協会へのご尽力に心より御 Ě 句集刊行に、 子規

> 句集をお寄せ下さり、 記しましたが、紅茶だけでなくワイン メージして「アフタヌーンティー」と に入ります。奮ってご応募ください。 などアルコールやケーキ、 ○総会のご案内には英国式お茶会をイ せるほど、価値のあるものになります。 した。受賞理由については、 ○全国大会の募集句・参加応募が佳境 賞というものは、 を掲載いたします。また、 次号に選考経過とともに 選考委員を悩ま 御礼申し上げま サンドイッ 多くの

> > 季節

の問題が出てきます。

茶道の言葉

そこに 世界で

道も、「会」あっての「芸」の を深めることは当然ですが

あり、「マナー」が必須です。

とその背景から、

俳句の視点や心の構

えのようなものを発見する機会にした

いと思います。

事を出された方も、 チなどをご用意して、イベントを楽し しますので、ぜひご検討ください。 務局までご連絡いただければ対応 んでいただく所存です。「欠席」 オンライン の第4 一六月六日 までに事 これま の返 11

花鳥諷詠 六月号 (通巻第四二三号) 発行所 発行人 令和五年六月一日 年会費一〇、〇〇〇円 定価二五〇円 但し、本代は年会費に含む 公益社団法人 尚 正

∓ 151 0073 シャンブル笹塚二-B一〇一 東京都渋谷区笹塚二一一八一九 日本伝統俳句協

郵便振替 口座番号 ○○一六○-七-一八六八二○ F A X 〇三-三四五四-五一九二

電

〇三-三四五四-五一九一

0014所 本ハイコム株

〒 印 112 刷 東京都文京区関口 九二

謹んで追悼するとともに生前の貢献に心より感謝申し上げます 黒川悦子副会長は四月二十六日

日本伝統俳句協会 代表理事(会長)

出

中

正.

享年七十五歳にて永眠されました

-40 -